はじめに

わが人生の、これまでの長い時間を振り返り、様々な出来事が脳裏に蘇ってきます。その中でも生まれ育った会津は、故郷としてばかりでなく、稀にみる自然と文化に恵まれており、この度人生の歩みの一端として、写真を取り上げました。

会津は、東は名峰磐梯山と日橋(にっぱし)川、南に日光連山と阿賀川（大川）、北に飯豊(いいで)連峰と押切川、西に博士山、明神ヶ岳と宮川（鶴沼川）、そして西会津と只見川という風に四方に連山に囲まれた風光明媚な盆地である。各河川が会津で合流して、阿賀川となって日本海に注いで行く。

河川を中心とした文化、それは水と人間の興隆を生み、平安時代初期から豊かな土地に文化が発達して来た。また、かつて奈良の都から下向した名僧徳一(とくいち)菩薩が仏教を広めて、「仏都会津」といわれるようになる。数多い寺院や仏像を見れば、会津独自の文化として育ってきたことが理解できよう。今日まで、1200年に及ぶ歴史は、かつての武士社会の戦火等によって、多くの遺産が焼失、散逸。そのことに会津の人々は絶えることなき信仰を貫き、深く生活の中に生き続けている。

時代は流れ、生活様式や住む人々が変わっても、会津の長い歴史の普遍的要素が根強く残っている。このような会津を訪れる人々は、近年実に多くなっていると聞きますが、その一人としてのテーマである「自然と溶けあった信仰と生活の足跡」それを辿ることによって、会津に対する理解の一助になれば幸いです。

平成28年8月

秋山　利喜